

大阪市立大学医学部附属病院
令和元年度第2回監査委員会
監 査 報 告 書

令和2年3月3日

公立大学法人 大阪
理事長 西澤 良記 殿
大阪市立大学医学部附属病院
病院長 平田 一人 殿

監査委員会
委員長 長部 研太郎

令和元年度第2回監査委員会において審議及び調査を行い、監査した結果を
下記のとおりご報告いたします。

日 時 令和2年2月12日（水）午後2時～4時

場 所 大阪市立大学医学部附属病院第1会議室及び院内

出席者 （監査委員会）委員長 長部研太郎

委 員 矢野 雅彦

辻 恵美子

桑鶴由美子

（病 院）平田 一人 病院長

山口 悦子 医療安全管理部長

中村 安孝 医薬品安全管理者

藤長久美子 医療安全管理部保健副主幹

市田 隆雄 中央放射線部保健主幹

富宅 哲生 庶務課長

(事務局) 医学部・附属病院事務局庶務課 餅田 恭秀

川中恵理香

監査内容

1 ヒアリング

中央放射線部から下記の事項についてヒアリング及び質疑応答を行った。

(1) 医療安全への取り組みの「きっかけ」

- ・全国都市改善改革実践事例大会、大阪市職員提案などで創意工夫に取り組んだこと

(2) 具体事例の紹介

- ・放射線治療における照射部位・範囲の検証用マーキング版の作製
- ・電子線治療における治療計画法の提案
- ・紙カルテの使用と顔写真入り患者カルテの作成（中央放射線部独自の取り組み）
- ・技術情報の一元管理、共有化
- ・MLCの表示変換プログラムの作成

(3) 業務改善に向けた技師のあるべき姿

- ・DRLの策定（IVR班）

(4) 総括

- ・S a f e t y（安全）、R e l i a b l e（信頼）、C o m f o r t a b l e（楽ちん）、R e a s o n a b l e（安上がり）を同時に達成
- ・技師の役割は医師と企業の間にとって、患者に役立つ土俵を作ること

2 視 察

中央放射線部所管の放射線治療科の操作室、治療室、CT室などを視察した。

3 結 論

(1) 概ね高く評価できる。

(2) 現場で問題点を拾い上げて、迅速に対処している点は素晴らしい。

カルテに患者の顔写真を貼付している取り組みは他の科でも検討してはどうかと考える。

担当の技師を診断部門と治療部門とで分けない体制は、両部門のコミュニケーションを円滑にする効果等が期待でき、評価できる。

職場での取り組みについて、各賞を受賞していることも、職場のモチベーションや一体感の醸成に効果があると考えられる。

(3) 課題をあげるとすれば、職員用スペースに荷物が乱雑に置かれていたので、整理整頓に努めていただきたい。

以上